

令和4年度中央畜産技術研修会実施計画

※末尾の注意書きを参照のこと

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者	
1	新任畜産技術職員（1）（基礎）	畜産技術者としての基礎知識のために	6/7 ～6/9	3日間	畜産各分野の基礎知識（酪農、肉用牛、養豚・養鶏・特用畜産、飼料、畜産環境保全、家畜衛生、JGAP、アニマルウェルフェア）、畜産関係主要法令、現地研修、課題討論等	40人	国、地方公共団体又は畜産関係団体の職員で、畜産領域に配属されて、原則3年以内の者、農業に従事する者
2	畜産行政（総合）	畜産行政推進の基礎知識のために	6/14 ～6/16	3日間	畜産行政をめぐる情勢、みどりの食料システム戦略、会計検査制度、マスコミから見た畜産行政、飼料自給率向上、畜産クラスター事業、アニマルウェルフェアの現状、JGAPの状況、食育推進、課題討論等、食品衛生と畜産物の安全性	40人	国、地方公共団体又は畜産関係団体職員で、当該関連分野（行政職務）に配属されて、原則5年程度の者、農業に従事する者
3	畜産物安全行政（総合）	畜産物の安全確保と消費者の信頼確保等に関する取組みの理解のために	6/21 ～6/24	4日間	リスク管理とは、リスクコミュニケーションの推進、人畜共通伝染病の動向・食品安全委員会におけるリスク評価、畜産物の安全性、食品表示、安全な食品とは、危機管理とは、大規模放射能汚染への対応、動物用医薬品・飼料のリスク管理、牛のトレーサビリティ制度、東京食肉市場の個体識別システム、JGAPの状況、生産段階のHACCP方式	40人	国、地方公共団体又は畜産関係団体の職員で、畜産職域に配属されて原則5年以内の者又は当該関連分野を担当する者、農業に従事する者

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者
4	肉用牛生産技術指導者養成(1)(専門)	効率的生産技術の指導者育成確保のために 6/27 ～7/1	5日間	肉用牛をめぐる情勢、家畜改良センター業務の概要と牛個体識別業務の現状、経営管理、繁殖牛の管理技術、哺乳子牛の生理と飼養管理、改良と登録の実務、肉用牛審査実習、受精卵移植・雌雄判別技術、肉質評価技術	20人	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該関連技術の指導を担当する分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
5	放牧(専門)	肉用牛の放牧の推進のために 7/5 ～7/7	3日間	<u>経営視点から見た放牧技術、放牧牛の衛生管理、放牧管理技術、放牧草地の更新、水田・里山・耕作放棄地への肉用牛放牧、放牧の実務、総合討論、高張力線牧柵・簡易電気牧柵の設置実習</u>	28人	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
6	食肉流通(専門)	食肉流通を取り巻く諸状況の認識のために 7/12 ～7/15	4日間	基礎知識(食肉流通・表示・食肉加工・畜産副産物・食鳥流通)、食肉処理施設の整備計画、食肉処理・加工の安全対策、食肉流通と関係法規、食肉の格付け、食肉品質評価、食肉衛生(学・行政)概論、生産段階における衛生管理、牛肉輸出の取組	20人	食肉流通の安全・衛生に係る指導を行う食肉の処理・加工・流通事業者の職員又は国、地方公共団体、畜産関係団体若しくは農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者

NO	講座名	講 座 名	期 間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
7	養鶏（基礎）	養鶏を取り巻く 諸状況の認識の ために <u>【隔年開催】</u>	8/23 ～8/26	4日間	<u>鶏卵・鶏肉の生産・流通と消費者ニーズ</u> 、生産 に係る施設整備、疾病対策、家禽防疫・予防、 育種改良、GAP への取組事例、アニマルウェル フェアの現状、素け生産と鶏卵、卵の加工成分 と機能成分の利用、販売戦略、素け生産とプロ 行-生産の実例	40人	国、地方公共団体、畜産関係 団体又は農協等生産者団体 職員で、当該分野に配属され て、原則5年以内の者、農業 に従事する者
8	飼料A・B （専門）	A：飼料を取り 巻く諸状況の認 識のために B：食品残さの 飼料化を推進す るために	8/30 ～9/2	4日間	A：流通飼料をめぐる現状と課題、高付加価値 畜産物の生産と飼料、飼料給与と栄養、飼料設 計の基本、流通飼料、添加物の安全性と品質保 持、飼料の安全確保、 B： <u>食品残さ等飼料化技術、エコフィード</u> をめぐる 現状と課題、 <u>食品残さ利用の養豚農場実践事 例</u> 、給与飼料と家畜への影響、課題討論等	40人	畜産職域等に配属された国、 地方公共団体、畜産関係団体 又は農協等生産者団体の職 員で当該分野に配属されて、 原則5年以内の者、農業に従 事する者
9	新任畜産技術職 員（2）（基礎）	畜産技術者とし ての基礎知識の ために	9/6 ～9/8	3日間	畜産各分野の基礎知識（酪農、肉用牛、養豚・ 養鶏・特用畜産、飼料、畜産環境保全、家畜衛 生、JGAP、アニマルウェルフェア）、畜産関係 主要法令、現地研修、課題討論等	40人	国、地方公共団体又は畜産関 係団体の職員で、畜産職域に 配属されて、原則3年以内の 者、農業に従事する者

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者
10	畜産環境保全 (<u>耕畜連携、 堆肥利用促進</u>) (<u>専門</u>)	9/20 ～9/22	3日間	畜産環境をめぐる情勢、 <u>地域における堆肥の循環利用の促進</u> 、肥料の品質の確保等に関する法律、 <u>耕畜連携における堆肥利用の経済性と組織対応</u> 、 <u>優良堆肥の条件と施用の基本</u> 、 <u>水田作における堆肥施用の基本と現場利用</u> 、 <u>大規模畑作における施用の基本と現場利用事例</u> 、 <u>野菜作における堆肥施用のポイント</u> 、 <u>総合討議等</u>	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
11	畜産環境保全 (<u>堆肥化処理・ 利用技術</u>) (<u>専門</u>)	9/26 ～9/30	5日間	畜産環境をめぐる情勢、堆肥化処理の原理と発酵に必要な条件、各種の堆肥化法と施設・攪拌移送機、処理施設の設計審査維持管理数値、家畜別各種堆肥化方式の実施設事例、ランニングコストの計算法と算出チェック、施設の設計審査・維持管理法の実技演習、 <u>堆肥の利用促進</u> 、 <u>肥料取締法の概要</u>	28人	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
12	畜産新技術 A・B(総合)	10/4 ～10/7	4日間	A： <u>精密分娩管理</u> 、牛の繁殖・育種(ET、受精卵移植、雌雄判別、クローン、ゲム)、 <u>精密繁殖管理</u> 、SNP解析、DNA解析の改良、 B：新技術の動向、畜産クラウド、ベンチマーキングによる経営分析、搾乳ロボット、現地研修、排せつ物の栄養生理学的制御技術、産業動物のアニマルウェルフェアの現状と課題	40人 B日程は 24人	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該技術分野に配属された者、又は関連業務の経験のある者、農業に従事する者

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者
13	肉用牛生産技術 指導者養成(2) (専門)	効率的生産技術 の指導者育成確 保のために	10/24 ～10/28	5日間 肉用牛をめぐる情勢、家畜改良センター業務の概要と牛個体識別業務の現状、経営管理、繁殖牛の管理技術、哺乳子牛の生理と飼養管理、改良と登録の実務、肉用牛審査実習、受精卵移植・雌雄判別技術、肉質評価技術	20人	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該関連技術の指導を担当する分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
14	畜産環境保全 (臭気対策技術) (専門)	畜産環境を取り 巻く諸状況の認 識のために	10/31 ～11/2	3日間 畜産環境をめぐる情勢、臭気防止の基礎、臭気 の分析・測定技術(実習)、 <u>設備・装置による脱臭 技術の基本と各種脱臭法、悪臭対策の基本と苦 情対応</u>	28人	畜産職域等に配属された国、 地方公共団体、畜産関係団体 又は農協等農業生産者団体 の職員、農業に従事する者
15	自給飼料(専門)	自給飼料を取 り巻く諸状況の 認識のために	11/8 ～11/10	3日間 飼料をめぐる情勢、 <u>公共牧場の運営改善技術、 飼料作物の品種、飼料作物(飼料用とうもろこ し、牧草・飼料用麦、稲WCS・飼料用米)の栽 培技術、自給飼料の加工調整技術、飼料生産関 係の農業機械、TMRセンターの現状と課題及び 展開方法、総合討論</u>	28人	畜産職域等に配属された国、 地方公共団体、畜産関係団体 又は農協等生産者団体の職 員で、当該分野に配属され て、原則5年以内の者、農業 に従事する者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者
16	酪農(基礎)	酪農を取り巻く諸状況の認識のために	11/15 ～11/18	4日間	牛乳・乳製品の情勢、貿易交渉の情勢、 <u>酪農ヘルパーを巡る情勢</u> 、現地研修、GAPへの取組事例、 <u>自給飼料生産用機械の最新動向</u> 、 <u>乳用牛のベストパフォーマンス実現のために</u> 、 <u>乳牛改良の動向</u> 、 <u>疾病予防対策</u> 、 <u>牛群検定と農家指導</u> 、課題討論等、牛から学ぶ牛の管理、アニマルウェルフェアの現状、 <u>自動搾乳システムでの乳牛行動に適した飼養管理および施設計画</u>	40人	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
17	養蜂(専門)	養蜂現場で必要な知識の普及のために 【隔年開催】	11/21 ～11/22	2日間	養蜂をめぐる情勢、蜜蜂の飼養と疾病対策、花粉交配用昆虫をめぐる情勢、養蜂における農薬被害対策、養蜂における蜜源植物の知識と重要性	40人	国、地方公共団体又は畜産関係団体の職員で、養蜂関連分野に配属されて、原則5年程度の者、養蜂業等に従事する者。
18	肉用牛(基礎)	肉用牛を取り巻く諸状況の認識のために	11/29 ～12/2	4日間	肉用牛改良の情勢、アニマルウェルフェアの現状、GAPへの取組事例、牛肉流通、 <u>牛疾病対策と農場 HACCP</u> 、 <u>一貫経営</u> 、 <u>和牛遺伝資源と改良</u> 、 <u>和牛の肉質の輸出拡大</u> 、肉用牛育種改良、子牛の健康と生産性向上、肉用牛の放牧管理、肉用牛のブランド化、肉用牛経営のデータ管理、課題討論等	40人	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
19	肉用牛繁殖経営 新規参入（基礎）	肉用牛繁殖経営 への円滑な新規 参入推進のため に	12/12 ～12/16	5日間 肉用牛をめぐる情勢、食肉流通の現状と課題、 牛の飼養管理、子牛の衛生管理技術及び飼養管 理、現地実習、飼料生産・調整、繁殖牛の放牧 管理、放牧草地の造成管理利用、肉質評価技術、 牛の個体識別業務の現状、自己経営診断手法の ための記録・記帳、ふん尿処理技術	15人	畜産職域に配属された国、地 方公共団体、畜産関係団体又 は農協等農業生産者団体の 職員で、当該部門の指導に携 わる初任指導職員、農業に従 事する者
20	統計遺伝育種学 （専門）	家畜育種理論の 修得のために 【隔年開催】	1/16 ～1/20	5日間 家畜育種の概論、ゲノム情報を利用した家畜 育種の概論、演習（BLUPF90ソフトウ ェア等を用いて）	28人	畜産関連データの収集・分 析に携わっており、日常的 に表計算ソフトを利用して いる者、農業に従事する者
21	畜産環境保全 （畜舎污水处理 技術）（専門）	畜産環境を取り 巻く諸状況の認 識のために	1/23 ～1/27	5日間 水環境行政の動向、畜産環境対策をめぐる情 勢、活性汚泥法污水处理技術の原理、污水处理 技術の基本、污水处理施設の設計審査・維持管 理に必要な数値（実習演習）、脱窒・硝化処理活 性汚泥法、膜分離活性汚泥法	28人	畜産職域等に配属された 国、地方公共団体、畜産 関係団体又は農協等農業 生産者団体の職員、農業 に従事する者
22	畜産経営A・B （基礎）	経営診断、簿記 を通じた畜産経 営の見方 【隔年開催】	1/30 ～2/3	5日間 A：畜産経営会計システム、簿記の技術、演習 B：外部・内部環境分析、マーケティング重 視の経営診断、経営診断手法の基本的な考え 方、経営診断の実際（演習）、これからの肉 用牛の畜産経営	28人	畜産職域に配属された国、 地方公共団体又は畜産関係 団体の職員、畜産経営診断 や簿記の基礎知識がある 者、農業に従事する者
23	（時事問題）		未定	未定		

	2 2 講座 (除時事問題)					
--	-------------------	--	--	--	--	--

(注) ①講座名欄の「講座名(A・B)」は、A(前半)、B(後半)のみの選択受講が可能なことを示す。

②従来の開設講座のうち、「畜産統計処理」、「統計遺伝育種学」、「畜産経営A・B」、「養豚」、「養鶏」、「養蜂」は、隔年で開催予定。

令和4年度は「統計遺伝育種学」、「畜産経営A・B」、「養鶏」、「養蜂」を予定。

③「時事問題」講座は、時宜にあった緊急性のある内容とするため、開催時期、開催日数等は未定。

④ _____下線部の講義は農業従事者が出席することに適した内容となっている。(1日でも受講可能)